

一般質問の概要

平成26年第4回 二宮町議会定例会

○12月22日（月）午前9時30分～

（根岸ゆき子、二宮節子、渡辺訓任、前田憲一郎 各議員）

○12月24日（水）午前9時30分～

（柳川駅司、露木佳代、野地洋正 各議員）

※両日とも2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

No	質問予定議員	質問概要
1	根岸ゆき子 議員	社会福祉法人「大磯恒道会」のその後を問う （放映件名：社会福祉法人「恒道会」のその後を問う） 平成26年6月議会において大磯恒道会の経営に関する請願が採択された。意見書を県に提出したが、その後の運営は安定化したのか。 町にとって高齢者福祉を考える時、重要な役割を担う施設であり、適切なサービス提供を伴っているか、という情報把握は必要だ。県へのパイプ役としての町の考え及び説明を求む。
2	二宮節子 議員	将来を見据えた定住促進のための子育て支援策を問う （放映件名：将来を見据えた、子育て支援策について） 今年の初めに、消滅自治体の発表がされて、わが二宮町も、その候補に掲げられています。消滅自治体になる条件は、若年女性（20～30歳）がこの減少率において2010年から30年間で、その率が5割を超える推計の自治体を（消滅可能性都市）としたものです。二宮町は53.6%でした。現在、二宮町では長寿の里として高齢者の方に光を当てた施策の重要性と共に、子どもを産み育てる環境づくりにも、更に重点を置き、消滅自治体から脱却するために、新たな取り組みが必要だと思えます。 以上のことを踏まえて以下質問をいたします。 - イクメン（男性育児参加）について 女性社会進出と共に、男性の育児参加の環境を整える施策の必要性があげられます。それを踏まえて二点質問 （1）町民への意識啓発と今後の対策について （2）役場の男性職員の現状について - 小児医療費無償化の拡充について - 不育症対策について
3	渡辺訓任 議員	二宮町の国民健康保険事業運営について （放映件名：二宮町の国民健康保険事業運営について） 高い国民健康保険税を引き下げてほしいとの住民要望が多く寄せられている。国民健康保険については、加入者の負担が増加する傾向にあり、多くの市町村で自治体からの一般会計からの繰り入れなどを行うことで、国民健康保険税の引き下げをしている。賃金引き下げ、年金削減等生活資金が減少する一方、税金は消費税をはじめ国税・介護保険など増えており、ますます生活が厳しくなっている中、二宮町においても政策的繰り入れを行い、国税引き下げなど加入者の負担軽減を図り、町民生活に対する支援が求められる。また、この施策は定住促進につながると考える。 以下について町の所見を問う。 二宮町は資格証発行率が県下市町村でも高い。国民健康保険税が高すぎることで滞納の原因の一つであると考えられる。資格証は受診の抑制につながり、重症化を進める要因の一つになる。資格証発行が滞納の減少にはつながらないと考える。資格証の発行を取りやめることを軸に滞納減少の策を求める。

	2. 国保会計では毎年繰越金が発生しているが、今年度の見込みはどうか。平成 27 年度は一般会計からの繰り入れなしに、繰越金や国保会計の財政調整基金を活用して国保税引き下げを行うことはできないか。 3. 類似財政規模の町村でも、一般会計からの繰り入れを行うことにより、国保税を下げていところがある。平成 27 年度の予算編成で、一般会計からの繰り入れもしくは国保会計の財政調整基金の取り崩しを予算化し、国保税の引き下げを求める。 二宮町の小児医療費助成の拡大について （放映件名：二宮町の小児医療費助成の拡充について） 今年度 6 月議会で、町は今年度中に小児医療費助成を中学 3 年生まで拡充する準備を進めると答えているが、町長の所信表明ではこの点について触れられていない。すでに、中学校卒業まで無料化を実現している市町村が近隣にある中、平成 25 年に子育て元年を宣言した町として、小児医療費助成の拡大は、子ども子育て支援策の重要な部分であり、定住促進のためにも積極的に推進すべきと考える。 小児医療費助成の早期の実施について、以下のように町の所見を問う。 1. 小児医療費助成の拡大について現時点での準備の状況と見通しは。 2. 小児医療費助成の拡大は、通院についても適用年齢を中学 3 年生まで引き上げることと、所得制限の撤廃の方向があるが、町はこの両方の実施を考えているか。 3. 平成 27 年度の予算編成の中での小児医療費助成拡大を求める。 コミバス等を含む地域公共交通の整備について （放映件名：コミバス等を含む地域公共交通の整備） 2013 年 12 月 2 日からコミュニティーバスの運行経路・スケジュールおよび料金の変更、また、デマンドタクシー（にのタク）の試験運行が開始された。昨年 3 月に策定された「二宮町地域公共交通計画」では地域公共交通の目標を『誰もが移動手段を確保することができ、維持し続けることができる公共交通体系』を定めているが、利用者が計画どおりに伸びていない状況は今回の変更・試験運行が利用者のニーズに合っていないことを示していると思われる。計画には「高齢者が増える将来においても、公共交通と他の交通（自家用車等）との連携により、誰もが移動手段を確保することができる公共交通体系を目指します。」という目標をうたっており、今後のさらなる高齢化を想定するならば、この目標に合致した計画の実施が早急に求められる。 以下の項目について、町の見解を問う。 1. 1 年たった段階でコミュニティーバスの経路・運行スケジュールと料金の変更について、また、にのタクの利用率・状況についてどのように評価しているか。 2. 民間バスの橘団地→釜野→駅ルートの朝晩の増便は交通難民の解消と自家用車利用の軽減に役立ったか。 3. 平成 23 年 9 月に実施されたアンケートで多くの回答者から設置要望が出された場所が実際のルート設定について生かされなかったのはなぜか。 4. デマンドタクシーについては利便性と経済性から改善要望が多い。バス並みの負担になるよう求める。 5. 平成 27 年度中にコミバスの経路・運行スケジュールおよび料金を改正し、利用者の利便を向上させることを求める。
--	--

4	前田 憲一郎 議員	町の財政をゼロからの見直しについて町長の見解を問う （放映件名：町財政の見直しについて町長の見解を問う） 町長の退職金の廃止化を掲げていることに対して、これは町長自ら身を切る改革でありまして、町長自らの公約に敬意を表します。 今日、少子高齢化の時代において町の税収が減ることは目に見えている。公共事業は町民の血税で運用されますのでガラス張りにしなければならないと思います。また、町民が多種多様な質の高いサービスを享受できるようにしなければならないと思います。どのように財源を確保し、財政を見直すのかということに対してつぎの3項目について町長の見解を伺います。 1. 公共施設の運用維持管理、財源確保について見解を伺います。 2. 各種団体等に対する補助金等を見直しについて見解を伺います。 3. 公共事業の推進にあたり、予算執行に伴う契約方法の見直し、受注者の審査、事業の検査等適正な執行に努めれば予算の抑制になると思いますので見解を伺います。
5	柳川 駅司 議員	二宮町の産業について （放映件名：二宮町の産業の中での農業について） 地場産業にも色々ありますが、二宮町でも農業 商業 工業 水産業その他とあり、二宮町にとってこれらの産業が活性化することで、この町も豊かになっていくものと私は信じていますが、いずれも残念ながら衰退の道を歩んでいるように思います。私はそれらの中で農業を営む者として町長に質問させていただきます。 1. 町長におかれましては、二宮町における農業とはどのように捉えられていますでしょうか？ 2. 前町長が今まで盛んだった、みかん、酪農、椎茸その他農産物に加え、新たにオリーブ栽培を提唱され、試験圃場をつくり近隣市町村に呼びかけ“湘南オリーブ”を立ち上げ取り組んできましたが、村田町長におかれましては、オリーブ事業に今後どのように取り組まれるのでしょうか。
6	露木 佳代 議員	子育て世代が使いやすく、子どもたちが楽しめる公園の在り方について町の見解を問う （放映件名：子育て世代が使いやすい公園について） 町は平成25年「二宮町子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたり、中学3年生以下の子がいる保護者を対象としたアンケート調査を行っている。 その中の“二宮町は子育てしやすい町だと思うか”、という問いに対し、どちらでもないが22%、あまり思わないが28%、まったく思わないが8%という結果になった。また町のもっとも悪いところに対する525件の回答のうち147件が【公園・遊び場】をあげている。 別のアンケートでも、アンケート対象者である0歳から6歳までの年齢の子どもの保護者の自由記述で、すべての年齢の保護者が【公園の整備】についてもっとも多く意見を寄せていた。 つまり、子育て世代は公園や遊び場に対して多くの不満や要望を抱えていることがわかる。それをふまえ、現在建設中の（仮）風致公園やその周辺について以下のことに対し、町の見解を伺いたい。 1. （仮）風致公園建設において、町民の意見や要望を反映することが必要だったと考えるが、町は建設過程において何らかの手段を講じたのか。また新町長になり、今後の町民参加方式に見直しがあるのか、その手法を問う。 2. （仮）風致公園の駐車場を含め、ラディアン周辺の駐車場について、それら施設や公園を利用しやすくするために料金体系をどのように考えているのか。その管理は各担当課で行っていると思うが、町長の見解も併せて伺いたい。 3. これまで保護者は、夏場になると水遊び場を求めて近隣市町村に車で出かけている状況にある。町内に水遊び場の整備を希望する人が多いが、町は今後そのような計画を持っているか？町内の駐車場がない公園ばかりの中で、果樹公園はその可能性として考えられるのではないか。

7	野 地 洋 正 議 員	将来の町づくりの主役となる青少年の健全育成について （放映件名：待ったなしの青少年健全育成を地域と共に！） 将来の町づくりを担う子どもたちは全町民の宝物であり、地域と共に大切にそして時間をかけて丁寧に育てていかなければなりません。この大切な時期にこそ家庭、地域、町が青少年とのコミュニケーションを増やし、見守り、学校教育と並行していわゆる社会教育を充実させていかなければならないと考えます。また、昨今重要視されています、防災及び災害時の中学生の役割という観点からも日頃から地域活動に参加し、地域と密着していることが大切であり、更には二宮町の素晴らしさを知る良き機会ともなり、住みたいと思える定住化促進のためにも大きく役立つと考えます。 私は、子ども会育成会3年、青少年指導員現在9年目の活動から、今回、青少年の対象とする年齢層を小学生、中学生、そして高校生から概ね20歳までと絞り質問を致します。 5年10年はあっという間であり、例えば近い将来を5年後とした場合、小学6年生は17歳に、中学3年生は20歳を迎え、高校3年生は23歳となっており、その多くは就職し社会貢献を始めています。待った無しでその活動を活性化させなくてはなりません。幸いにも二宮町にはその核となる組織、団体が既に存在しており、小学生の子ども会、中学生を対象としたサークル恵友会、高校生以上概ね20歳までで組織されるボランティア団体、シニアリーダースクラブが既に存在しており、男女、年齢を問わず学校生活を超えた活発な地域活動が行われています。この小学生から大人までが共に時間を共有し、一体となり活動をしている二宮町の青少年健全育成事業につきましては、近隣自治体、神奈川県からも大変高い評価をいただいております。諸先輩たちが長きにわたり築き上げてきた我が二宮町の尊い財産で有ります。この継続、発展こそが将来活力ある二宮を創造する原点となり、また将来の二宮を担うリーダーを育てる大切な事業、仕組みであると感じております。 以上、口述した通り現状につきましては青少年育成に関する環境はある程度整えられていると感じてはおりますが、近年、少子化及び事業の縮小化により会員数、入会率が減少し、存在、存続そのものが危ぶまれている状況にあります。青少年の健全育成、将来の町づくりという観点からも大変由々しき問題であるところと見え、町の考え、今後の対応を伺うものです。 要旨1、青少年健全育成事業の必要性、重要性、進むべき方向性について町のお考えをお伺いしたい。 要旨2、各団体の過去5年間の会員数、加入率の推移、及び昨年度の主な事業とその成果についてお聞かせ願いたい。 （1）子ども会 （2）恵友会 （3）シニアリーダースクラブ 要旨3、要旨2で挙げた各団体、組織への加入率を増やしていくために何が必要か、何をどうしていかなければならないか、町の考えをお聞かせ願いたい。
---	----------------	---